

昭和62年度普及区域指導活動記録

都道府県名 沖縄県
 専門技術員室名称 沖縄県水産業改良普及所専攻室
 普及区域 本島一円

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
	1. 普及職員連絡協議会の開催	6月1日、 9月10日 ～11日、 12月18日 63年2月 25日～ 26日	普及所	普及職員		漁業後継者対策事業（漁業士含む）に関する計画検討と予算及び各担当地区ごとの普及課題についての意見交換、さらに64年度に向けての普及活動計画のみなおしを図るべく、営農指導課普及計画担当専攻の渡口氏をまねいて、普及計画策定にあたっての考え方等についての説明会を開催した。	
企画事業	2. 漁協青壮年部移動相談の実施	別紙	別紙	青壮年部	漁協（事務局）	漁協青壮年部の移動相談については、別紙の目的と内容について実施した。62年度は2月22日の糸満漁協青年部をもって終了した。（詳細については、62年度活動報告書参照）	
	3. 漁協青壮年部、部長事務局会議の開催	3月23日	普及所	青壮年部	普及職員	移動相談終了後の3月23日に青壮年部部長、事務局会議を開催した。今回は63年度の課題設定へ向けての部会及び班設置の確認と課題案についての意見交換が行なわれた。昭和63年度は、課題設定に向けて、普及課題との関連づ	

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
企画事業	4. モズク養殖生産者会議	8月14日	普及所	生産者	水産振興課、漁政課、水産試験場、漁連、	<p>けをどうするか検討したい。</p> <p>モズクの養殖は、昭和62年度で10年を向かえることになったがその間、生産技術の確立はみだものの販売形態や流通等については、今後さらに取り組みを強化する必要があるが生産者及び関係者が一同に会し、モズク養殖の今後の方向性をみだすために意見交換を実施した、午前中は、各漁協の現状報告を行ない、午後から全体討議が展開された。(詳細については、62年度活動報告書参照)</p>	
	5. 普及資料及び広報の発行(普及だより)	62年 7月27日 63年 2月20日	普及所	青壮年部 婦人部 研究グループ	市町村 漁協	<p>生産現場の情報活動の一環として発行、19号は人事異動や営漁計画について。20号は昭和62年度の後継者対策事業について主な内容とした。普及だよりは年2回となっているが、63年度はできれば3回発行したい。</p>	
調査事業	1. オキナワモズクの水揚及び養殖実態調査	8月～ 9月	35 漁協		市町村 漁協	<p>昭和62年度オキナワモズク水揚調査結果</p> <p>1. 養殖モズク 生産量：7,185,218 kg (81.7%) 金額：1,203,892,435 円</p> <p>2. 天然モズク 生産量：1,271,355 kg (14.5%) 金額：185,720,270 円</p>	

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
調査事業	2. モズク養殖に係る漁場調査	10月5日	八 重 山	生 産 者	八重山地区 普及員 協 漁 市 町 村	3. 天然糸モズク（養殖含む） 生産量：337,616 kg（3.8%） 金額：60,145,700 円 4. 総生産 (1)生産量：8,794,189 kg (2)金額：1,449,758,405円(見込) モズクの水揚げ及び養殖実態調査については、昭和63年1月29日に結成された沖縄県モズク生産量等調査協議会で調査に当ることになったため、当普及所では62年度をもって調査を打ち切ることとした。（詳細については、62年度活動報告書参照）	
	3. モズク漁場環境調査	9月14日 9月16日 9月21日	知 念 与 那 城 恩 納		協 漁 青 年 部 生 産 者	(1)苗床漁場としての底質の状況 (2)本張り漁場としての利用の面から潜水調査を実施するとともに、種保存についてのアドバイスを現地採苗室において行なった。 モズク漁場環境調査を水試とのタイアップで下記項目について実施した。尚、同調査については1回では漁場条	

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
		9月25日 10月8日	伊是名 本部			<p>件の判断資料にはなり得ないので63年度も継続調査をする。</p> <p>【調査項目】</p> <p>①水深、水温、塩分、潮流、SS</p> <p>②栄養塩：NO₃-N、NO₂-N、NH₄-N、PO₄-P ③底質等について5地区で実施した。(結果については別途報告する。)</p>	
試験事業	1. クビレオゴノリの増養殖試験 (技術改良試験)	4月～ 3月	糸満地区 具志川地区	青年部 生産グループ	市町村、 漁協	<p>(1)サンゴの骨格(遺骸)による採苗及び移植</p> <p>(2)ノリ網及びネトロンシートによる採苗及び養殖の展開</p> <p>(3)果胞子の放出促進に伴う干出処理試験等について実施した。</p> <p>尚、63年度は貝殻を使用して果胞子付けを行ないコレクター垂下養殖を試みたい。(詳細については、62年度活動報告書参照)</p>	
	2. スジアオノリの養殖予備試験	11月～ 6月	恩納村	青年部	市町村、 漁協	<p>62年度から、恩納漁協青年部海藻班を中心に本格的(採苗網数300枚)な養殖生産に入った。沖出し後、育苗から生育の段階までは順調であったが漁場が非常に浅い(干潮時15～20cm)ため藻体の色出しが難かしく、また、収穫後の処理作業に手間がかかると、予想</p>	

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
研究事業	普及員一般研修	9月10日	普及所	普及員	専門技術員	漁協青壮年部活動の進め方 (組織のみなおしと、部会及び班設置について)	
	漁業者	漁業技術一般研修	本部	生産グループ	市町村, 漁協	(1)モズク盤状体冷蔵保存講習会の実施	
			宮古地区	"	漁協, 普及員	(2)モズクの生育と漁場及び品質管理についての講習会の実施	
			八重山地区	"	漁協, 普及員	(3)モズク養殖についての講習会の実施	
			"	"	"	(4)ヒトエグササ養殖及び天然採苗についての講習会の実施	
			喜屋武	"	市町村, 漁協	(5)オゴノリ, コレクター採苗についての講習会の実施	
具志川	青年部	市町村, 漁業組合	(6)クビレヅタ養殖についての学習会及び宮古地区養殖漁家との技術交流会の実施				

昭和62年度普及区域指導活動記録

都道府県名 沖縄県
 改良普及員室名称 水産業改良普及所普及員室
 普及区域 沖縄本島地区

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
企画事業	漁村青少年協議会	6月 10月 3月	本島地区	漁村青少年	漁協 市町村	第1回会議 ・昭和62年度漁業後継者対策事業の実 施計画について ・少年水産教室について ・青年漁業士育成事業等について 第2回会議 ・漁村青少年協議会委員の辞令交付 ・正副会長の選出について ・漁業後継者対策事業および協議会の 主旨説明 ・昭和62年度漁業後継者対策事業実施 状況について ・昭和63年度漁業後継者対策事業計画 について ・協議会の今後の進め方について 第3回会議 ・昭和62年度漁業後継者対策事業実施 状況について ・昭和63年度漁業後継者対策事業実施 計画について	

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
	水産普及だより	7月, 2月	全区	漁協 市町村 関係機関	漁協 市町村	<ul style="list-style-type: none"> 青年漁業士等育成事業について 漁協や関係機関との情報交換、現場情報の提供のため、7月と2月の2回発行した。 	
	普及職員業務連絡 会議	6月	会議室	普及職員		<p>普及活動の計画検討や活動状況の情報第1回会議</p> <ul style="list-style-type: none"> 少年水産教室について 青年部及び研究グループの実態調査様式案の作成について 漁業士活動について 昭和61年度技術改良試験、新技術実証事業、沿岸域計画営漁推進事業等の概要及び報告会 	
		9月	"	"		<p>第2回会議</p> <ul style="list-style-type: none"> 昭和62年度実績発表大会について 少年水産教室の反省について 昭和63年度漁業後継者対策事業等計画について（漁業士・営漁） 昭和62年度普及事業中間報告について 	
		12月	"	"		<p>臨時会議</p> <ul style="list-style-type: none"> 普及計画及び課題の設定にあたっての検討会 漁協青年部活動の指導方法について 	

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
		2月	会議室	普及職員		第3回会議 ・昭和63年度普及事業予算確定状況報告 ・昭和62年度普及事業実施状況報告と次年度計画について ・昭和63年度普及課題の検討	
	沿岸漁業改善資金 運営事業	4月～ 3月	普及地区	漁業者	漁政課 営農指導課 農業改良普及所 水試 漁連 信連 市村	改善資金運営協議会の開催 第1回 9月8日 第2回 11月26日 第3回 2月12日 申請状況 資金種類 件数 事業費 申請額 経営改善 161 271,491 223,681 生活改善 1 965 800 後継者養成 2 4,487 4,487 合計 164件 事業費 276,943 円 申請額 228,968 円	継 続
	沿岸域計画営漁 推進事業	62年 4月～ 63年 3月	恩納村	漁業者 漁協	村 その他	1. 現状及び営漁意向の把握 正組合を対象にアンケート調査を実施した。また、各業態代表からなる検討会で意向を聴取しまとめた。統計資料の整理、分析も行った。 2. 営漁計画の作成 漁協が中心となり計画案を作成し、	1. 計画の実践に対する指導が必要である。 2. 63年度は久米島で計画を作成する。

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
	漁業士育成事業	9月～ 3月	沖縄一円	青壮年 漁業者	漁協 市町村	<p>現地検討会、地域別懇談会、県指導部会等で修正、整理を行った。</p> <p>昭和62年度は下記のとおり認定された指導漁業士 2名 高良忠邦 伊是名漁協 追込網 根間登志夫 平良市漁協 モズク養殖 青年漁業士 3名 謝花喜和 本部漁協 モズク養殖 与那嶺強 沖縄市漁協 ハヤオ・モズク 名嘉全正 八重山漁協 曳縄、トビロープ</p>	
調査事業	漁業公害調査	4月～ 3月 (毎月2回)	本島地区 (9地点)	漁業者	漁協 市町村 水試	<p>1. 主として養殖場付近の水質調査を4月から2月まで毎月2回計22回実施した。</p> <p>(1)測定場所：名城、志喜屋、与那原 北中城、与那城、石川 屋嘉田、羽地、塩屋</p> <p>(2)測定項目：水温、DO、比重、PH 気温、天候、風向、 風力、波浪</p> <p>2. 赤土調査：10月21日、下記の赤土流出場所で晴天時の写真撮影と濁度測定を実施した。次回は大雨時に実施する。</p>	

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
	大規模増殖場及び魚礁の効果調査	1~2月	今帰仁, 国頭 与那城, 中城 恩納, 読谷	漁業者	漁協 市町村	(1)測定場所：北谷町、恩納村、塩屋 辺野古、惣慶、伊芸 シラヒゲウニ増殖場の間接効果調査、 密漁調査及び自家消費アンケートを実 施して沿岸業務に協力した。	
研修事業	特別研修	5月31日 、 6月6日	鹿児島県 種子島 鹿児島県栽培 漁業センター	漁業者	漁協 市町村 水試	研修目的：磯根資源の増殖管理 (フクトコブシの増殖管理) 研修内容：フクトコブシ増殖技術と漁 場管理について、種子島西之表市漁 協での説明会と放流漁場調査を実施 した。また、フクトコブシ放流を实 施している西之表市漁協組合員との交 流会を行った。鹿児島県栽培漁業セ ンターではフクトコブシの種苗生産 技術と増殖技術について研修した。 参加者：伊江漁協青壮年部 トコブシ班2名 講演及び講師： 「水産物の付加価値向上、流通への 取組み」 千葉県千倉南部漁協参事 植木泰滋氏 討議 (六・六方式) 参加人員：52名	
	交流学习会	8月26日 ~27日	恩納村	漁協青年部 組合員 役員 市町村水産 担当者等	漁協 市町村		

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
	普及職員一般研修 全国水産業改良普及職員行政研修 技術交流会 (マグロ鮮度保持)	6月 10月15日～16日 10月8日～10日	糸満 東京 久米島	普及員 普及職員 伊良部	専技 水産庁 伊良部漁協 同青年部	専門技術員による行政一般及び専門技術についての研修 昭和62年度全国水産業改良普及職員行政研修に2名参加 目的：浮魚礁周辺で漁獲されるマグロの鮮度保持方法について技術交流 方法：伊良部中に設置されたパヤオでマグロを漁獲し、その鮮度保持の現地研修を実施 参加：久米島漁協 3名 伊良部漁協 7名	
試験事業	新技術実証事業 「フクトコブシ増殖試験」	4月～3月	伊江村	伊江漁協 青壮年部	漁協 市町村 専技	。フクトコブシ増殖試験 フクトコブシ種苗16,500個(殻長2cm)を放流し、移動、食性、成長、歩留り等について調査した。 なお、中間育成試験をあわせて実施した。 (詳細については、昭和62年普及活動報告書参照)	数量不明
指導事業	青年水産教室	6月30日	糸満市	漁業者 漁協職員 市町村水産担当	漁協 市町村	。講演及び講師 「漁業協同組合活動について」 糸満漁協組合長 玉城盛勝氏 。昭和62年度漁業後継者対策事業実施計画説明	

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
		1月12日	那覇市	漁業者 漁協職員 市町村水産 担当者	漁協 市町村	<ul style="list-style-type: none"> 参加人員：23名 講演及び講師 「漁協青年部実践活動について」 宮城県漁協青年団体連絡協議会 会長 及川道男氏 参加人員：300名 実績発表大会と同時に実施した。 夏休み期間中を利用して、水産に関する初歩的な知識と技術について学習させた。 参加者：伊是名漁協8人、 港川漁協 2人 読谷村漁協4人 伊江漁協 2人 与那国町漁協2人 八重山漁協4人 合計 22名 	
	少年水産教室	7月27日 ～31日	糸満市 (普及所)	中学2～ 3年生	漁協 市町村 水試 水産高校	<ol style="list-style-type: none"> 発表者及び発表課題 。平良市漁協狩俣漁業生産グループ 根間 登志夫氏 「漁場管理とグループ活動」 恩納村漁協青年部員類研究班 我那覇 宗信氏 「タカセ貝の増殖に取り組んで」 与那城村漁協 仲門 徳和氏 「タイワンガンガミの育成・放流について」 	
	漁村青壮年婦人活動 実績発表大会	1月12日	那覇市 水産会館	青年部 青壮年部 婦人部 研究グループ	漁協 市町村 関係機関		

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
	漁協青年部移動相談（巡回指導）	4月～ 3月	本島地区	漁協青年部 青壮年部	漁市町村 協	<ul style="list-style-type: none"> 羽地漁協大宜味支部養殖研究会 宮城秀護氏 「魚類養殖経営について」 伊良部町漁協池間生活改善グループ 久高照子氏 「地域漁業の特性を生かした特産品作りとむら興し」〔最優秀賞〕 2. 参加者：300名 漁協青年部や青壮年部と活動状況等についての意見交換を行い、地域にあったグループ活動を検討した。 実施場所：伊平屋、国頭、石川、伊江、勝連、恩納、沖縄市、知念、港川、久米島、具志川	
	魚類養殖指導	4月～ 3月	塩屋、北谷	研究グループ 漁業者	漁市水 協村試 栽培センター	<ul style="list-style-type: none"> ハマフエフキ、コガネシママアジ、マダイ等魚類養殖の学習会と養殖技術を指導した。（詳細については、昭和62年度普及活動報告参照） 	
	オニテナガエビ養殖指導	4月～ 3月	今帰仁、国頭 渡嘉敷	内水面養殖 業者等	漁市水 協村試	<ul style="list-style-type: none"> うなぎ養殖施設を利用したオニテナガエビ養殖指導と養殖希望者に学習会を実施した。（詳細については、昭和62年度普及活動報告書参照） 	

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
	浮魚、礁漁業指導	4月～ 3月	本島地区	漁業者 研究グループ	漁協 市町村	中層流し釣りの漁具製作および漁法について指導	
	鮮度保持指導	4月～ 3月	本島地区	漁業者 研究グループ	漁協 市町村	鮮度保持方法については、まだ確立された方法がないので、今年度は主としてマグロのヤケの原因とされる、魚体温と魚肉PHの基礎資料を収集した。	
	海藻類養殖指導	4月～ 3月	北中城	研究グループ	市町村	ヒトエグサ及びモズクの養殖指導 養殖網700枚	
	シヤッコ貝放流技術指導	4月～ 3月	中城 名護 恩納 本部	漁業者 青年部	水試 栽培センター 漁協 市町村	水試八重山支場で生産されたシヤッコ貝種苗を各漁協が無料で譲り受け、放流。放流作業、管理、事後調査について指導 ①中城 4月14日 230個試験放流 4月27日 1万個放流 参加70名 6月12日 5千個放流 参加43名 ②恩納 7月10日 3千個放流 参加45名 ③名護 12月10日 5千個放流 参加8名 ④本部 1月19日 5,600個 2月3日 4,400個中間育成 2月23日 放流作業	

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
	水産物の加工指導	62年4月 ～ 63年3月	伊江村 那覇市	漁業者 協 漁婦人部	村 水試等	<ul style="list-style-type: none"> トビウオの加工事業を推進するため先進地視察、講習、事業計画の立案等を行った。 マグロ加工製品の開発委員となり、先進地視察、パッケージのデザイン等を行った。 	<p>1. トビウオの加工では、機械化により事業を推進する必要がある。</p> <p>2. マグロ加工製品の流通対策にとり組む。</p>
	放流用魚類の中間育成指導	7月～ 2月	国頭	漁協	国頭村役場 東村役場 水試 栽培センター	<p>ミナミクロダイ稚魚を刃土名漁港内中間育成施設へ収容して放流サイズまで飼育し、標識を装着して放流する。</p> <p>1. 中間育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ミナミクロダイ稚魚3万尾 (TL 17.4mm) 収容 飼育期間 (234日間) 取り揚げ尾数2,506尾 取り揚げ時大き (FL 14.5cm) 中間育成歩留り 8.3% <p>2. 標識放流</p> <ul style="list-style-type: none"> 放流尾数2,506尾 標識種類 (H型 1,414尾、アムカー型 1,092尾) 放流場所 伊地地先 約 400尾 刃土名漁港内 約2,100尾 	
	タイワンガザミの中間育成放流指導	5月～ 8月	与那城村	漁協	水試 栽培センター	<p>タイワンガザミのメガロバ幼生及びC1稚ガニを海中に設置された施設内において中間育成後放流する。</p>	

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
						<ul style="list-style-type: none"> ○ 第1回は5月27日に3.3万尾を収容し、6月3日まで飼育。6月4日に9,700尾放流。(勝連町浜地先) ○ 1987年6月20日にC₁8万尾直接放流。(与那城村平安座地先) ○ 第2回は6月20日に10万尾を収容し6月28日まで飼育。6月29日に1,000尾放流。(与那城村平安座地先) ○ 1987年8月12日にC₂~C₄3.5万尾を海中道路北側へ直接放流、中間育成、放流作業は浜比嘉、平安座屋敷名支部がそれぞれ担当。 	

昭和62年度普及区域活動記録

都道府県名 沖縄県
 改良普及員室名称 宮古支庁農林水産課
 普及区域 宮古地区

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
企画事業	漁村青少年協議会	4月～ 3月	平良市 伊良部町 池間	後継者	市町村 漁協	第1回（5月26日） 1. 昭和62年度漁村少年水産教室（夏学期級）の取組について 2. クビレオゴノリ技術交流会について 3. 昭和62年度漁村青年婦人活動実績発表大会の取組について 第2回（8月31日） 1. 昭和63年度漁業後継者対策事業計画立案について 2. 昭和62年漁村少年水産教室の反省と今後の対応について 3. 昭和62年宮古地区漁業生産グループの交流会の反省と今後の対応について 第3回（12月11日） 1. 役員選出について 2. 昭和63年宮古地区漁業後継者対策事業について 3. 青年水産教室（宮城県漁青連会長）来島に伴う対応について	

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
	沿岸漁業改善資金の運用事業	4月～3月	糸満市	漁業者	市町村漁協	低燃費機関 2件 カラークーラー 2件	
調査事業	漁業公害調査	4月～3月	与那覇湾	漁業者	市町村漁協	海浜状況観測及び水質調査実施 (水温, DO, PH, について調査した結果は別紙報告書参考)	
	魚礁の効果調査	4月～3月	島尻地先 大神島地先	漁業者	平良市 栽培漁業センター 平良市漁協 県水産試験場	ウニ魚礁効果調査のため5月1日に島尻地先ウニ魚礁 昭和63年2月14日に大神島地先ウニ魚礁を調査した。	
	魚礁の効果調査	4月～3月	管内全域	漁業者	市町村漁協	人口礁及び並型魚礁の設置位置を魚群探知機と山あて調査により確認し漁業者に設置位置の指導をおこなった。 調査海域 1. 人口礁 フデ岩南 2. 並型魚礁 高野漁港地先	
	浮魚礁と中層浮魚礁の効果比較調査	4月～3月	伊良部島北沖	漁業者	伊良部町漁協 青年部	従来から設置されている表層型浮魚礁は耐久性に難点があり 宮古地区だけで1年間に10基程度の流出がある。その改善のため平良市の協力を得て昭和61年11月下旬島～NNW11マイルに中層魚礁を設置し表層浮魚礁との比較調査を実施した。	継続実施

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
						<p>調査日 昭和62年8月17日 協力船 寿方丸(5トン) 調査位置 曳 縄, マドロ流し釣り 漁獲 表層浮魚礁 キハダマグロ 2尾 68 kg キメジ 52 kg カツオ 61 kg 合計 181 kg 中層浮魚礁 キメジ 18 kg カツオ 33 kg 合計 51 kg</p>	
	漁協青年部活動調査	4月～ 3月	伊良部町	後継者	市町村 漁協	<p>評価 1日の調査で結論は出せないが、漁業者の意見では、魚の謂集状況は中層浮魚礁よりも表層浮魚礁の方がよいとのこと。 今後効果と耐久性の両面から調査を継続したい。</p>	
指導事項	グループ活動育成指導	4月～ 3月	管内全域	青壮年 婦人グループ	市町村 漁協	<p>昭和62年度は伊良部町漁協青年部について調査した。 詳細は別途報告</p>	<p>グループ育成の一環として、狩俣漁業生産グループを対象「漁協とグループの役割」という題で学習会を開催した。その他に西原漁業研究会を結成、同グループの活動課題として「イトモズク養殖技術開発試験」に決定。</p>

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
	漁家経営改善モデル 漁家指導	4月～ 3月	池間	漁業者	市町村 漁協	漁業種別別に5漁家選定、池間漁協を中心 に営漁簿の記帳を指導した。	
	クビレヅタ増殖指導	4月～ 3月	久松、下地 与那覇湾、 入江、	久松漁業 研究会、 平良市漁協 下地支部、	平良市漁協、 平良市 水試	久松・与那覇湾内におけるクビレヅタ 増殖について (1) 指導要約 宮古島特産としての増養殖を、昭和59年度からスタートし、昭和60年、10名の研究グループで取り組んできました。その課程で起きた問題点は、①母藻の流出 ②台風時の原藻流出 ③セ ンナリヅタ等の雑藻流出 ④赤土の 付着 ⑤セツカイ藻付着によるブドウ の変色等の問題点が発生した。 昭和62年度の指導 (1) 養殖カゴ1,100個から3,000カゴ に増設したので、個人別養殖からプ ール計算共同管理方式に変更したが 台風の被害にあい、生産量は計画20 屯に対し、8屯の実績であった。 (2) ネット方式とカゴ方式の併用指導 サランネット(10m×1m)を、イカダ、 けい留ブロックを利用して張り母藻 を1枚当たり1.3kg結集経過観察した 結果5枚で18kgの収穫が 1網当たりの収穫量は3.6kgであった。 問題点として、カゴ方式に比べ赤土 の付着が多く雑草の除去等手入れに	

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
						<p>時間がかかる。成果としては、台風時の流出が少なくなブドウの粒が揃っており、カゴとネットの併用は今後も有望である、</p> <p>(3) 収穫、洗浄、保存、流通</p> <p>従来は、養殖カゴを収穫用イカダに引き上げ手摘み又はハサミでブドウを収穫していたが、カゴの移動に2～3時間を要していたので、モズクの採取網（シーブ）を利用して、海中収穫を実施した結果、1人1日当たりの収穫量は10kgから30kgに増えた。収穫したクビズタは、従来の手洗いから海水ポンプでの洗浄に切り替えましたが洗浄しすぎてブドウが潰れてしまい450kgの損失をまねいた。</p> <p>保存方法として、収穫、洗浄後木綿袋に10kgづつつ入れて1晩（16時間程）水切りを行い、弁当箱に200gづつ詰めて出荷した。</p> <p>この方法では、3日～4日たつとブドウがしぼんでしまい臭いが出るので、本土への大量出荷が出来ない難点がある。その改善方法として、県水産試験場の指導も受け、従来の通気性パックではなく、密封容器に変えたところ、2週間以上の保存が可能になり漁協、県漁連をとうして本土出荷が出来るようになった。</p>	

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
	イトモズクの養殖指導	4月～3月	管内全域	漁業者 生産グループ	漁市 栽培漁業 センター	<p>1. 平良市栽培漁業センター内モズク採苗施設を活用した越冬保存指導</p> <p>5月18日母藻採取を行い、1トンバンライトに1kgつつ5個で保存を実施した。保存時の照度は平均(3500ルクス)顕微鏡で11回確認したところ、採苗板へのりが悪かった。</p> <p>考察 1. 母藻の採取時期が遅かったこと、 2. 母藻の量が少なかつたこと、 3. 雑藻の付着が多かつたことが考えられる。</p> <p>その改善のため専門技術員の指導もつけ、純粋培養による海水を入れた小型水槽で保存し採苗板を増やしたところ十分網付けすることが出来た。</p> <p>2. その方法を、狩保漁業生産グループ、島尻漁業生産グループ等に普及指導した。</p>	
	ヒトエグサ養殖指導	9月～3月	多良間村	漁業者	村 生普及員	<p>多良間島名産、黒砂糖、アーサ、パックのとお土産品の原料用ヒトエグサ確保のため生活改良普及員から養殖指導の依頼があったので、多良間村水産係も交えて協議した結果、冬場の製糖時期と重なり、着業希望者がいないとこのことで断念した。</p>	
	まぐろの漁具漁法改良指導	6月～9月	伊良部町 平良市	漁業者	漁協市町村 栽培漁業 センター	<p>浮魚礁(パヤオ)周辺でのまぐろ流し釣り漁法は飼付け漁法と言われる程撤餌量が多く伊良部町漁協所属の3トン船で</p>	

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
						<p>1日当たり、平均30kgを使用している。その改善のため、エサカゴのサブマリンビッグを使用し中層撒きを試みたところ2尾で73kgの漁獲があった。</p> <p>問題点としてエサカゴを沈めるための沈子にナイロンが絡む欠点があり、今後改良を加えたい。</p> <p>浮魚礁周辺でのまぐろ流し釣り漁業は水温、潮流の変化によって漁獲量が大きく左右される。</p> <p>その改善のため、改善資金で導入した協和丸(3トン)のカラー魚探を使ってまぐろの探索をしたところ、かつお・きめじは黄緑表示、まぐろは赤の単体表示になっておりその表示の多い程漁獲が多かったため伊良部町漁協青年部、平良市漁協パヤオ利用生産グループに対しカラー魚探の活用を指導した。</p>	

昭和62年度 普及区域指導活動記録

都道府県名 沖 縄 県
 改良普及員室名称 八重山支庁農林水産課
 普及区域 八重山地区

事業区分	課 題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
企画事業	八重山地区漁村 青少年協議会	6月	八重山漁協 会議室	協議会委員	漁協青年部 協 村 漁 市	。漁業後継者対策事業の検討、策定のための委員会開催 昭和62年度第1回議題 1. 少年水産教室(夏期学級)について 2. 漁業士について 3. 青年水産教室について (沖縄の漁業の歴史 沖縄水産高校教諭, 上田不二夫氏) 4. 漁協青年部及び研究グループの活動の進め方について 5. その他 昭和62年度第2回議題 1. 沖縄県漁村青少年協議会設置要綱及び沖縄県八重山地区漁村青少年協議会会則の説明について 2. 会長・副会長の選出について 3. 昭和62年度漁業後継者対策事業の中間報告及び昭和63年度漁業後継者対策事業計画(案)の説明について 4. 漁業士の報告について	漁村青少年の意向 集約 実践活動の評価 委員会活動の自主性
		10月	支庁会議室	"	"		

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
						5. 少年水産教室の反省及び次年度への取り組みについて 6. 漁村青年婦人活動実績発表大会の取り組みについて 7. その他（辞令交付） 昭和62年度第3回議題 1. 昭和62年度漁業後継者対策事業の報告について 2. 昭和63年度漁業後継者対策事業計画の説明について 3. 次年度の漁業士の取り組みについて 4. 少年水産教室の反省及び次年度への取り組みについて 5. 次年度の漁村青年婦人活動実績発表大会の取り組みについて 6. 漁協青年部及び研究グループ活動の進め方について 7. 漁村青年協議会のあり方について 8. その他	
	漁業士育成事業	9月～3月	八重山漁協会 議室 水産業改良普及所	漁業者	漁協、市町村	昭和62年度の八重山地区の青年漁業士は、下記の者が認定された。 名 嘉全正 八重山漁協 (曳縄, トビロープ)	

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
	沿岸漁業改善資金 運用事業	4月～ 3月	管内全域	漁業者	漁市 町村 農普及所	改善資金の事業計画の検討、対策及び申請書類の検討のため運営協議会への参加 申請額 経営等改善資金 19件 33,440円 生活改善資金 1件 880円	運用面での沿岸漁業改善資金の貸付事業を普及指導し、活動の中に取組み。
調査事業	表層浮魚礁調査	5月～ 11月	黒島南東沖 西表島沖 与那国島沖	漁業者	漁市 町村 研究グループ	浮魚礁の調査効果と曳縄釣、漁具試験のため5ポイントを調査した。 キハダマグロ 4尾 210 kg シビ 23尾 55 kg カツオ 5尾 13 kg シラ 1尾 4 kg 計 33尾, 282kg 釣獲した。	継続実施
	モズクの漁場調査	6月	石垣市 (平久保地先)	"	漁協, 市町村 専技	イトモズクの漁場選定と技術指導を受けるため専技を招き調査を行った。	効果調査及び集約
	沈下魚礁調査 (協力)	11月	小浜島沖 西表島沖	"	漁市 町村	魚礁効果調査と並行しながら、投下された魚礁の位置の確認と山立て等の写真撮影を行ない、その効果と位置を周知すべく沿整用務に協力した。	継続実施
	漁業公害調査	4月～ 3月	石垣市 (伊原間湾)	"		沿岸漁場の水質調査 水質測定器によるDO, PH, 比重, 濁度, 水温の測定 (結果は主管課報告)	継続実施

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
研修事業	漁業技術研修会	5月	竹富町 (白浜)	研究グループ	漁市町 研究グループ	八重山漁協浮魚継研究会、西表支部の 会員を対象に曳縄、流し釣、漁具、漁 法の講習会を行なった。 参加者 15名 (詳細については、昭和62年度水産業 改良普及活動実績報告書参照)	継 続 実 施
	技術交流会	9月	平良市	"	漁市町 宮古支庁	宮古地区に於けるクビレヅタ養殖(垂 下方式)の技術交流を図った。 参加者 7名 (詳細については、昭和62年度水産業 改良普及活動実績報告書参照)	
	学 習 会	10月	与那国町	漁 業 者 漁業青年部	漁 市 町	伊平屋村漁協協長、西銘仁正氏により 「地域管漁と漁場管理」についての具 体的な例をあげて講演を行なった。 参加者 35名	継 続 実 施
	漁業技術研修会	10月	石垣市	研究グループ	漁 市 町 専 技	昨年度のヒトエグサ養殖は、水温が高か ったせいか藻体の伸びが悪く、しかも 雑藻の付着が多くみられたので、これら の技術的なことを克服するため専技に より講習会が行なわれた。 なお、イトモズクについても今後の八重 山地区の課題として同時に講習会を行 なった。 参加者 15名	

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
	普及職員一般研修	12月	水産業改良 普及所	普及員	専 技	専門技術員による「漁協、青壮年部活動の進め方」についての研修	
試験事業	グビレツタ養殖試験	7月～ 10月	竹富町 (舟浮湾)	研究グループ	漁市水 協村試	母藻をモジ網に結着しアンドン籠で垂下方式による養殖を行ない、併せて漁場の環境調査も行った。 (詳細については、昭和62年度水産業改良普及活動実績報告書参照)	継続実施
	タカセ貝放流試験	11月 3月	竹富島東沖	〃	〃	タカセ貝資源が年々減少しているため稚貝7mm～10mm 10,000個、4mm～6mm 5,000個 計15,000個と6cm～8cmの貝450個を標識(黄色)放流した。 なお、追跡調査した結果稚貝はほとんど見られず魚による食害のあとは見られた。標識貝(黄色)は、その放流漁場の周辺にほとんど見られ、あまり移動していなかった。	
指導事業	浮魚礁利用と漁具 漁法及び鮮度保持 の指導	5月～ 9月	竹富町 (白浜)	研究グループ	漁市水 協村 研究グループ	八重山漁協浮魚礁研究会西表支部の会員を対象に曳縄釣・流し釣漁具の製作及び乗船研修を併せてマグロの鮮度持の方法も指導した。 (詳細については、昭和62年度水産業改良普及活動実績報告書参照)	継続実施 流通関係の検討

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
	少年水産教室	7月	水産業改良 普及所	中学生	漁協 市町村	漁村の子弟に夏休み期間中を利用して水産に関する初歩的な知識と技術について学習させ水産業の役割について理解を図った。 八重山地区からは、八重山漁協管内4名、与那国町漁協管内2名の計6名参加。	継続実施
	青年水産教室	8月	石垣市	漁業者 漁協青年部 研究グループ	"	沖縄水産高等学校教諭、上田不二夫氏による「沖縄の漁業の歴史」についての講演が行なわれ有意義な青年水産教室がもたれた。 参加者 25名	"
	ヒトエグサ養殖指導	11月～ 3月	石垣市 (名蔵湾)	研究グループ	漁協 市町村 専技	前年度は水温が高く、しかも雑藻が多く生産量があるまわり芳しくなかったので専技の技術指導を受けながら進めている。	"
	青年水産教室	1月	石垣市	漁業者 漁協青年部 研究グループ	漁協 市町村	宮城県漁協青年団体連絡協議会長、及川道男氏による「漁協青年部実践活動」についての講演が行なわれ、その後活発なる意見交換がもたれるなど有意義な青年水産教室であった。 参加者 25名	"
	グループ指導	4月～ 3月	管内全域	漁協 青年部 研究グループ	"	漁協青年部及び研究グループの活動が弱体化しているので、関係機関と連携し組織の強化を進めている。	"

事業区分	課題	実施時期	地区又は場所	普及対象	協力者・団体等	普及活動経過	翌年度への展開事項
	沿岸漁業改善資金の活用並びに調査指導	4月～3月	管内全域	漁業者	漁市 協村 農改普及所	今年度は貸付枠より申請額が倍近い金額であるため申請については、漁協利用者を中心に指導した。 今年度は指摘されているため、申請者同様保証人についても詳しく調査指導を行なった。	継続実施
	巡回指導	4月～3月	"	"	漁市 協村	漁村を巡回し、巡回相談、試験、調査等の事業を行なっており併せて漁村青少年グループの意向集約及び育成強化も進めている。	"